

目立つ畜力の機械化

岡山の家畜調査

農林省岡山統計調査事務所

農林省岡山統計調査事務所では、このほど32年2月1日現在の岡山県下の家畜頭数を調査した。これによると①乳用牛，メン羊，ヤギ，ブタ，ニワトリ，ウサギなどの用畜は増加し，役肉牛，馬などの役畜は減少している②動力耕耘機の普及で畜力の機械への転換が目立つ③地域別の乳牛飼養構造は，備中地域が集中専門的で，美作地域は分散的普及であり，備前地域は両者の中間である，などがみられる。種類別頭数次の通り。

◇乳用牛＝飼養頭数は1万1,060頭で29年同期にくらべると4,868頭から2.4倍に増えている。これは農家が多角経営をねらって現金収入を増やそうとする意欲の現われと，機械力の導入で用途のなくなった役牛を乳牛に切替えたため。地域別飼養頭数の割合は，備中地域が42.8%を占め，備前29.4%，美作27.8%である。

◇メン羊＝飼養頭数は9,250頭で29年同期より約5,000頭増え，2.2倍に達している。メン羊は手軽に飼養できるのが魅力で，これが増加の主な原因で，地域

別には3地域とも平均して普及している。地域別の飼養割合は備中地域39.3%美作地域33.6%，備前地域27.1%である。

◇役肉牛＝岡山県は優秀な和牛の産地として有名だが，29年当時11万7,000頭であった飼養頭数は年々減少し，32年2月には11万1,220頭になっている。この減少の原因は耕耘機などの導入による農業の機械化で役牛の必要がなくなったのが大きく影響しており，全国的には期間中（29年2月～32年2月）に約2%増加しているのに，岡山県では約5%の減少をみせている。地域別の飼養頭数は備前地域が全体の24.2%で量も少く備中地域41.1%，美作地域34.7%である。

なおニワトリは157万羽で29年同期（145万羽）比10%増，ウサギは2万2,000羽で29年同期（1万1,000羽）比100%増，ヤギは2万40頭で29年同期（1万2,800頭）比56%増となっており，馬は2,870頭で29年同期（3,930頭）比27%減となっている。